

持続性選択H<sub>1</sub>受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤

貯法：錠10mg)室温保存  
 (OD錠10mg)室温保存、  
 気密容器  
 使用期限：外箱に表示の使用期限内に  
 使用すること。  
 注 意：取扱い上の注意の項参照。

**ロラタジン錠10mg「YD」**  
**ロラタジンOD錠10mg「YD」**

	錠10mg	OD錠10mg
承認番号	22300AMX01009	22300AMX01010
薬価収載	2011年11月	2011年11月
販売開始	2011年11月	2011年11月

**LORATADINE TABLETS**  
**LORATADINE OD TABLETS**

(ロラタジン錠、ロラタジン口腔内崩壊錠)

**[禁忌]** (次の患者には投与しないこと)  
 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

**[組成・性状]**

**1. 組成**

**ロラタジン錠10mg「YD」**

1錠中、ロラタジン10mgを含有する。  
 添加物として、乳糖水和物、トウモロコシデンプン、  
 ステアリン酸Mgを含有する。

**ロラタジンOD錠10mg「YD」**

1錠中、ロラタジン10mgを含有する。  
 添加物として、D-マンニトール、ヒドロキシプロピ  
 ルセルロース、スクラロース、ケイ酸A1、ヒドロキ  
 シプロピルスターチ、セルロース、クロスポビドン、  
 香料、ステアリン酸Mgを含有する。

**2. 性状**

**ロラタジン錠10mg「YD」**

白色の割線入りの素錠である。

**ロラタジンOD錠10mg「YD」**

白色の割線入りの素錠である。

	外形			直径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (mg)	識別 コード (PTP)
	表	裏	側面				
ロラタジン錠 10mg「YD」				約6.5	約2.6	100	YD 608
ロラタジンOD 錠10mg「YD」				約7.0	約3.2	120	YD 609

**[効能・効果]**

アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚  
 そう痒症)に伴うそう痒

**[用法・用量]**

成人：通常、ロラタジンとして1回10mgを1日1回、食  
 後に経口投与する。なお、年齢・症状により適宜増  
 減する。

小児：通常、7歳以上の小児にはロラタジンとして1回  
 10mgを1日1回、食後に経口投与する。

**(用法・用量に関連する使用上の注意)**

OD錠10mgは口腔内で速やかに崩壊することから唾  
 液のみ(水なし)でも服用可能であるが、口腔粘膜から  
 吸収されることはないため、水なしで服用した場合は  
 唾液で飲み込むこと。

**[使用上の注意]**

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
  - 肝障害のある患者  
 [ロラタジンの血漿中濃度が上昇するおそれがある。]
  - 腎障害のある患者  
 [ロラタジン及び活性代謝物descarboethoxy-  
 loratadine(DCL)の血漿中濃度が上昇するおそれがある。]
  - 高齢者(「高齢者への投与」の項参照)
- 重要な基本的注意
  - 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を  
 考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時  
 まで続けることが望ましい。
  - 本剤の使用により効果が認められない場合には、漫  
 然と長期にわたり投与しないように注意すること。
- 相互作用  
 ロラタジンから活性代謝物(DCL)への代謝には  
 CYP3A4及びCYP2D6の関与が確認されている。  
 併用注意(併用に注意すること)

薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エリスロマイシン シメチジン	ロラタジン及び活性 代謝物(DCL)の血漿 中濃度の上昇が認め られるので、患者の 状態を十分に観察す るなど注意すること。	薬 物 代 謝 酵 素 (CYP3A4、CYP2D6)阻 害作用を有する医薬品 との併用により、ロラ タジンから活性代謝物 (DCL)への代謝が阻害 され、ロラタジンの血漿 中濃度が上昇する。[活 性代謝物(DCL)の血漿 中濃度が上昇する機序 は不明]

**4. 副作用**

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる  
 調査を実施していない。

**(1) 重大な副作用**

- ショック、アナフィラキシー(いずれも頻度不明)  
 ショック、アナフィラキシーを起こすことがある  
 ので、チアノーゼ、呼吸困難、血圧低下、血管浮腫等  
 があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置  
 を行うこと。
- てんかん(頻度不明)  
 てんかんの既往のある患者で本剤投与後に発作が  
 あらわれたとの報告があるので使用に際しては十  
 分な問診を行うこと。
- 痙攣(頻度不明)  
 痙攣があらわれることがあるので、異常が認め  
 られた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこ  
 と。
- 肝機能障害、黄疸(いずれも頻度不明)  
 AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、Al-P、LDH、ビ  
 リルビン等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸  
 があらわれることがあるので、観察を十分に行い、  
 異常が認められた場合には投与を中止し、適切な

処置を行うこと。

(2) その他の副作用

次のような副作用が認められた場合には、必要に応じ、投与中止等の適切な処置を行うこと。

	頻度不明
精神神経系	眠気、倦怠感、めまい、頭痛
呼吸器	咽頭痛、鼻の乾燥感
消化器	腹痛、口渇、嘔気・嘔吐、下痢、便秘、口唇乾燥、口内炎、胃炎
過敏症	発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発赤
皮膚	脱毛
肝臓	AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、ビリルビン値上昇、Al-P上昇、γ-GTP上昇
腎臓	蛋白尿、BUN上昇、尿閉
循環器	動悸、頻脈
血液	好酸球増多、白血球減少、好中球減少、単球増多、リンパ球減少、白血球増多、リンパ球増多、ヘマトクリット減少、ヘモグロビン減少、好塩基球増多、血小板減少、好中球増多
その他	尿糖、眼球乾燥、耳鳴、難聴、ほてり、浮腫(顔面・四肢)、味覚障害、月経不順、胸部不快感、不正子宮出血、胸痛

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能(肝、腎等)が低下しており、高い血中濃度が持続するおそれがあるので、慎重に投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、投与を避けることが望ましい。

[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、動物試験(ラット、ウサギ)で催奇形性は認められないが、ラットで胎児への移行が報告されている。]

(2) 授乳中の婦人には、投与を避けることが望ましい。やむを得ず投与する場合は、授乳を避けさせること。

[ヒト母乳中への移行が報告されている。]

7. 小児等への投与

(1) 3歳以上7歳未満の小児に対しては、ロラタジンドライシロップ1%を投与すること。

(2) 低出生体重児、新生児、乳児又は3歳未満の幼児に対する安全性は確立していない。(使用経験がない)

8. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤は、アレルゲン皮内反応を抑制するため、アレルゲン皮内反応検査を実施する3~5日前より本剤の投与を中止すること。

9. 過量投与

徴候、症状：海外において、過量投与(40mgから180mg)により眠気、頻脈、頭痛が報告されている。

処置：一般的な薬物除去法(胃洗浄、活性炭投与等)により、本剤を除去する。また、必要に応じて対症療法を行う。なお、本剤は血液透析によって除去できない。

10. 適用上の注意

(1) 薬剤交付時

P T P包装の薬剤はP T Pシートから取り出して服用するよう指導すること。(P T Pシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

(2) 服用時(OD錠10mgのみ)

OD錠10mgは舌の上のにせ唾液を浸潤させ舌で軽くつぶし、崩壊後唾液のみで服用可能である。また、

水で服用することもできる。ただし、寝たままの状態では水なしで服用しないこと。

[薬物動態]

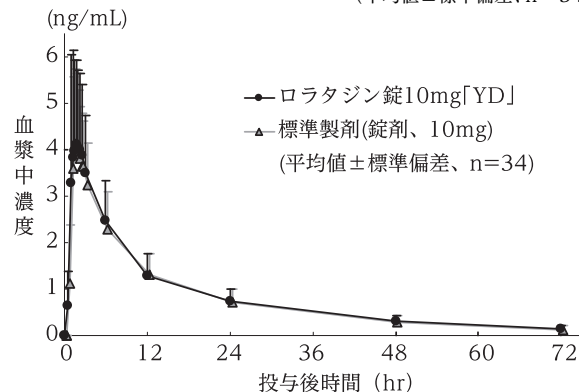
ロラタジン錠10mg[YD]

生物学的同等性試験

ロラタジン錠10mg[YD]と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ1錠(ロラタジンとして10mg)、健康成人男子34名に絶食単回経口投与して、血漿中の活性代謝物Descarboethoxylopatadine(DCL)濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。<sup>1)</sup>

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-72</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
ロラタジン錠10mg[YD]	59.12±19.40	5.12±2.00	2.0±1.2	20.4±4.3
標準製剤(錠剤、10mg)	56.95±19.92	4.75±1.45	1.7±0.6	19.8±3.3

(平均値±標準偏差、n=34)



ロラタジンOD錠10mg[YD]

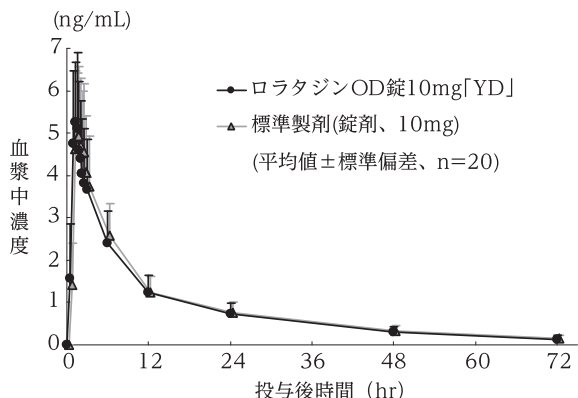
生物学的同等性試験

(1) 水で服用した場合

ロラタジンOD錠10mg[YD]と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ1錠(ロラタジンとして10mg)、健康成人男子20名に絶食単回経口投与して、血漿中活性代謝物Descarboethoxylopatadine(DCL)濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。<sup>2)</sup>

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-72</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
ロラタジンOD錠10mg[YD]	60.31±18.42	5.60±1.67	1.3±0.2	20.6±3.6
標準製剤(錠剤、10mg)	62.17±18.59	5.61±1.78	1.4±0.3	20.8±2.8

(平均値±標準偏差、n=20)



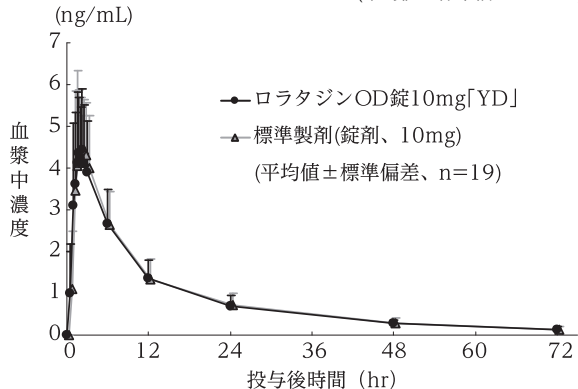
血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(2) 水なしで服用した場合

ロラタジンOD錠10mg [YD]と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ1錠(ロラタジンとして10mg)、健康成人男子19名に絶食単回経口投与して、血漿中活性代謝物Descarboethoxyloratadine (DCL)濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。<sup>2)</sup>

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-72</sub> (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
ロラタジンOD錠10mg [YD]	60.09±18.29	5.19±1.58	1.7±0.6	19.1±2.7
標準製剤 (錠剤, 10mg)	61.09±17.54	5.50±1.57	1.7±0.6	18.5±4.0

(平均値±標準偏差, n=19)



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

[有効成分に関する理化学的知見]

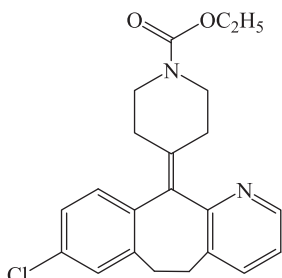
一般名：ロラタジン(Loratadine)

化学名：Ethyl 4-(8-chloro-5,6-dihydro-11H-benzo-[5,6]cyclohepta[1,2-b]pyridin-11-ylidene)-1-piperidinecarboxylate

分子式：C<sub>22</sub>H<sub>23</sub>ClN<sub>2</sub>O<sub>2</sub>

分子量：382.88

構造式：



性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。

メタノール、エタノール(99.5)、アセトン又はトルエンに溶けやすく、アセトニトリルにやや溶けやすく、水にほとんど溶けない。

[取扱い上の注意]

ロラタジン錠10mg [YD]

安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヶ月)の結果、ロラタジン錠10mg [YD]は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。<sup>3)</sup>

ロラタジンOD錠10mg [YD]

(1) 保管方法

- 1) 使用期限内であっても、アルミピロー開封後はなるべく速やかに使用して下さい。
- 2) 本剤は吸湿性が強いので、アルミピロー開封後は湿気を避けて保存し、服用直前までPTPシートから取り出さないで下さい(一包化調剤は避けて下さい)。

(2) 安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヶ月)の結果、ロラタジンOD錠10mg [YD]は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。<sup>4)</sup>

[包装]

ロラタジン錠10mg [YD]

PTP：100錠、500錠

ロラタジンOD錠10mg [YD]

PTP：50錠、300錠

[主要文献]

- 1) (株)陽進堂社内資料：生物学的同等性試験
- 2) (株)陽進堂社内資料：生物学的同等性試験
- 3) (株)陽進堂社内資料：安定性試験
- 4) (株)陽進堂社内資料：安定性試験

※※ [文献請求先]

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

株式会社 陽進堂 お客様相談室  
富山県富山市婦中町萩島3697番地8号  
☎ 0120-647-734

製造販売元

